

会 議 録

会議名	平成 28 年度第 2 回東浦町社会教育委員会	
開催日時	平成 28 年 10 月 20 日（木） 午前 10 時から午前 11 時 52 分まで	
開催場所	東浦町文化センター 2 階視聴覚室	
出席者	委員	石原弘幸氏、鈴木万里子氏、松下玲子氏、 中村建志郎氏、久米 弘氏、杉浦義治氏、 二宮邦子氏、水野智美氏、
	事務局	教育長、教育部長、生涯学習課長、中央図書館長、 スポーツ課長、生涯学習課長補佐、図書館係長、 生涯学習指導員
欠席者	天野圭二氏、平井伸幸氏、竹内正樹氏、宇井弘文氏、文化財係長	
議題	1 「生涯学習」に係る中央図書館の取組について 2 その他	
傍聴者の数	なし	
審議内容	◆生涯学習課長 次第に従い、会議を進める。最初に委員長からあいさつ。 ◇委員長 (あいさつ) ◆生涯学習課長 教育長からあいさつ。 ◆教育長 (あいさつ) ◇委員長 次第に従い、議事を進める。次第の 1 「生涯学習に係る中央図書館の取組について」を議題とし、事務局から説明を求める。 ◆事務局 配付資料に基づき、説明。 本町の図書館は開館 25 周年を迎えたが、ここ 5 年間ぐらいの間に、指定管理の問題や電子書籍の普及など、図書館を取り巻く環境は大きく変わった。来館者数や貸し出し数が減少する中、住民のみなさんに気軽に来館、利用していただくことを目指して、従来の概念にとらわれない新たな視点に基づくサービスを提供するようになった。 ◇委員長	

	事務局の説明を受けて、委員の意見を募る。 ◇委員 図書の貸出が伸び悩んでいる原因はどこにあると考えているか。貸出数と来館者数の推移との相関などはどうか。 ◆事務局 貸出数は毎年減少している。来館者数は平成 24 年度から計り始めた。25 年度に減少し、26 年度には若干持ち直したが、27 年度にはまた少なくなった。世の中全体の図書離れ、活字離れが大きな原因であるにとらえている。 ◇委員 これまでの一般的な利用の仕方（調べる、勉強する、読む、借りる）だけでは、若者たちに図書館の魅力を感じさせることはできない。図書館が地域の人たちの交流の場になり、読書を通して互いの交流を深めていくようになるとよいと思う。行事をきっかけにして図書館に来ていただき、図書館の本に目を向けてもらうようにしたい。 ◇委員 先日の 10 月 1 日のよむらびコンサートには、200 名ぐらいの人がやってきた。そのときに、図書を借りる時間を設けていた。効果はいかがだったか。 ◆事務局 イベントを行うときには、関連した図書の紹介を毎回している。そして、イベント終了後に 30 分間ほど貸出する時間を設けている。当初は借りる人が少なかったが、しだいに浸透し、今回もたくさんの人が借りていた。 ◇委員 図書館に出かけようと思って、いつも気になるのが駐車場の問題である。駐車可能台数があまりにも少ない。 ◆事務局 駐車場の問題は懸案事項になっている。職員は役場におき、来館者のみなさんに使っていただけるように、スペースを空けている。文化センターの駐車場も利用していただくように案内している。 ◇委員 勤労福祉会館の駐車場も開放してくれるとありがたいが、南側
--	--

	の駐車場は時間帯によって、鎖で閉じられてしまう。 ◆事務局 勤労福祉会館の利用時間に合わせて利用できる。このため、閉鎖されてしまうことがある。 ◇委員 公共施設が集まっているので、お互いに融通し合っていくとよい。工夫の仕方、多少は緩和されるのではないかと。 ◇委員 昨今は、不用品の整理などで所蔵していた図書を処分される方も多し。なかには貴重なものもある。文化の継承という視点で、図書館がかかわれないか。 また、本町の図書館には、久松潜一氏のコーナーがあるが、地元の人の出版本なども集めてはどうか。 ◆事務局 個人がもっている図書・資料については、寄贈していただけるものは受け付けている。精査して、図書館の中に入れさせていただくものもある。しかし、状態が悪いものや百科事典のようなものは遠慮いただいている。古くて価値のあるものは資料館と連携している。 個人の出版本は、「東浦コーナー」を設けて、地元の方の図書の展示をしている。しかし、個人の図書については、寄贈していただけないという話がないと、何の動きもとれない。寄贈いただいて、資料として保存することになるが、保存にも限度がある。現在、閉架書庫も開架の方もほぼ満杯という状態である。新しく入れた分と同じ数だけリサイクルしていかななくてはならない。そういった点も了承していただかなくてはならない。 ◇委員 持ち込みをしてくる人は、年間どれぐらいいるのか。 ◆事務局 自分が読まれた図書を持ち込んでくる人が多い。年間、かなりの数の人がいる。漫画本の寄贈も多い。寄贈は受け付けるが、取り扱いはこちらにお任せいただくというスタンスである。 ◇委員 電子図書の導入については、どのように考えているか。 ◆事務局
--	--

	今後の課題と考えている。電子図書を取り扱うには、電子機器がかならず必要になる。そして、現在の図書館システムに取り込む必要がある。費用対効果の面から考えると、もう少し世の中の動向を見極めたい。 ◇委員 東浦町単独ですべてそろえて実施するということは難しいかもしれない。しかし、どこかとネットワークを組んで進めるという選択肢もある。電子書籍の一番の利点は、図書館に行かなくてもよいということである。若い人にとっては、スマホを利用して図書に親しむというアプローチの方が抵抗は少ないのではないかな。 ◆事務局 これからの波は、そのように進んでいこう。乗り遅れることがないように、アンテナは高くしていきたい。 ◇委員 中高生が学習室をよく利用している。学習室の利用をきっかけに、図書館のよさを知り、図書館に通うことにつながることも考えられる。中高生を取り込むことも学習室から始まる。 ◆事務局 2階の大会議室を学習室として開放している。テスト週間が近づく、と、中高生がかなり集まってくる。しかし、その中高生たちは、自分で持ち込んだ参考書や教科書を利用して、勉強して帰っていく。図書館の本に手を伸ばすことは少ない。そこで、ティーンズコーナーを設けて、若い人たちに読んでほしい図書を集める計画をしている。勉強の合間に、視線を向けてもらえればと考えている。 ◇委員 蔵書が満杯状態となっているので、毎年購入した分と同じぐらいの数を廃棄するという状況になっている。蔵書が増えていけない。よい図書も廃棄しなくてはならないこともある。図書館の分館という形で、コミュニティセンターを利用することはできないかな。 ◇委員 移動図書館がある地域もある。幼い子どもがいる家庭や貸し借りの手軽さを考えると、移動図書館はありがたい。コミュニティセンターなどに常設することもよい考えだと思う。また、返却しやすいシステムの構築も考えてほしい。
--	---

	◇委員 以前は、公民館に図書が置いてあった。 ◆事務局 中央図書館や児童館ができて、公民館(現：コミュニティセンター)の図書を移動させたという経緯がある。児童館では、今も貸し出しをしている。 ◇委員 昨日(10/19)のネットワーカー養成講座における町長の話の中で、一般の店舗でも図書の貸し出しをしているところがあると聞いた。 ◆事務局 よむらびサポーターズのみなさんが中心になってやっている、「ぐるぐる図書館 I N ひがしうら」という取組である。喫茶店や肉屋の店舗などの一面にコーナーを設けて、図書を置くというものである。身近なところに図書を置いて、気軽に利用していただくというものである。個人の図書と図書館でリサイクルした図書を置かせていただいている。置かせていただいている所のマップを現在作成中である。 また、返却ポストをいろいろなところに設けてはどうかという話は出ている。検討段階である。 ◇委員長 次第の1へのさらなる意見がないことを確認し、次第の1の審議終了を宣告。 次第の2「その他」について予定がないことを確認し、議事の終了を宣告。 ◆事務局 次回の委員会について連絡。次回は、3月に予定。日時は後日連絡。
備考	なし